

豊かな感性と創造性の芽生えを育む

認定こども園 野田学園幼稚園 山口県

ここが
Point!

地域でわくわくする姿 わくわくする姿を地域に

「わくわくする姿を支える」＝「科学する心を育てる」と位置づけたうえで、地域の自然や資源を活かした独自の探究活動が展開されています。下記のゲンジボタルの事例からは、園は地域の一部であり、園で体験した出来事を掘り下げていくと、地域の自然や人々の営みへとつながっていくことがよくわかります。こうした実体験を積み重ねていくことで、子どもたちには郷土愛やそれに根差した課題意識が芽生えていくのです。それには、保育者による理念と実践の往還、丁寧な足場架けが欠かせません。先生方は、こうした取り組みを積極的に発信し、保護者や地域に広げていきたいと考えており、地域における実践研究の拠点となっていくことが期待されます。

深まる郷土愛

園近くの「一の坂川」では、天然記念物のゲンジボタルが多く飛び交う。ある日、園庭に大量発生した謎の生き物（貝）をきっかけに、ホタルの幼虫の主食ではないかと調べたことから、ゲンジボタルへの興味が広がった。地元の「ホタルを守る会」の方と交流を行う中で、「ホタルを守るために、清掃活動をしていること」や「ホタルの幼虫を放流していること」などを教えてもらう。その中で、「ゴミ拾いなら、自分たちにもできるかもしれない!」と考え、一の坂川周辺の清掃活動をすることにした。

カワナは、
水がきれいな川にいるんだよね?

山口市の川も、
キレイってこと?



山口市が綺麗だから、
アメリカの人たちが
たくさん遊びに来てるよね!

海外からも注目されていることに
子どもたちの関心が向いている。

子どもたちが地元の環境を知るきっかけになるかもしれない!
地域の方とのかかわりを大切にしながらか活動を進めていきたい!

「ホタルを守る会」の方から、「蛍カゴ」の作り方や使い方を教わると共に、ゲンジボタルは人の手で触ることすら禁止されていると知る。「ホタルを近くで見たい」という願いのもと、「蛍カゴ」を作ることにした。(蛍カゴとは、麦わらを編み込んで作られた伝統工芸のカゴで、昔は蛍の観賞用として使用されていた)。

6月中旬、園内にゲンジボタルが迷い込んできた。素手でホタルを捕まえようとする3歳児へ説明をし、蛍カゴへ導く。「ホタル、本当に入ったね」。本物のホタルを観察した後、「元気でね!」「一の坂川、綺麗にするからね」と放した。

「ホタルを守ること」が「自分たちの住んでいる場所を守ること」にもなると気づき、ホタルのシーズンが過ぎ去った今も、自発的に園周辺のゴミを拾う姿が見られている。また、地元の自然保護や文化の継承などは、多くの人の力で成り立っていることだと気付いた。子どもたちの心に芽生えた「郷土愛」を、今後も大切にしていきたい。

